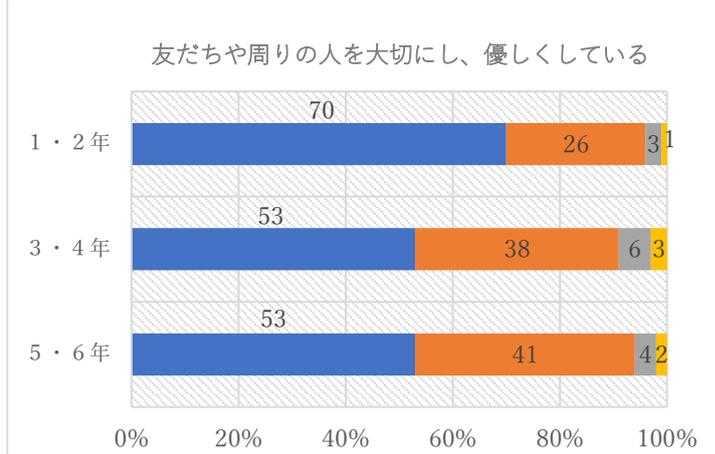
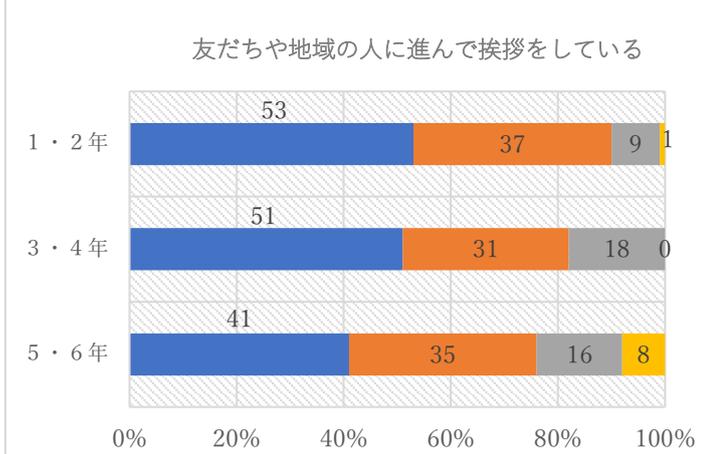
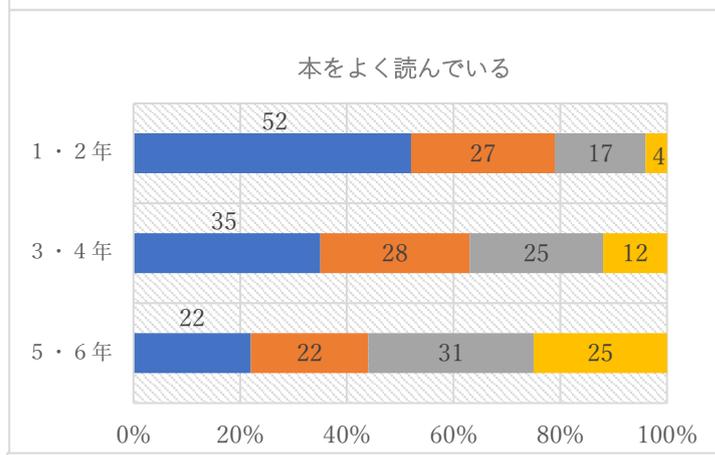
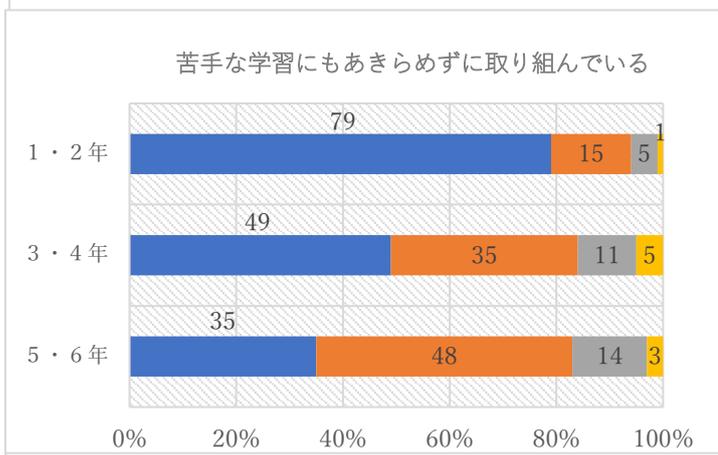
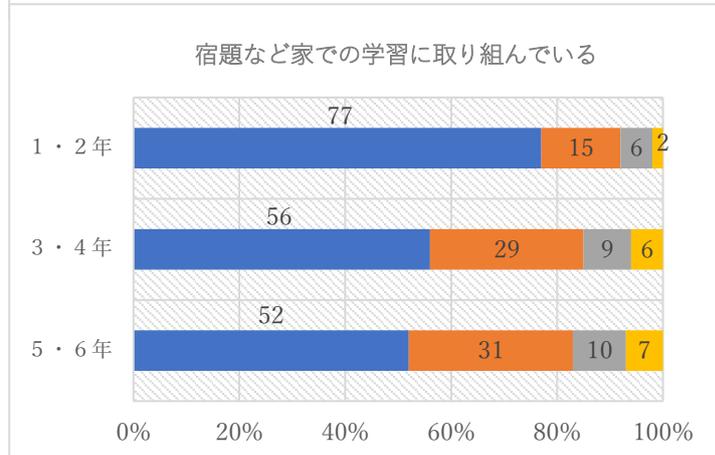
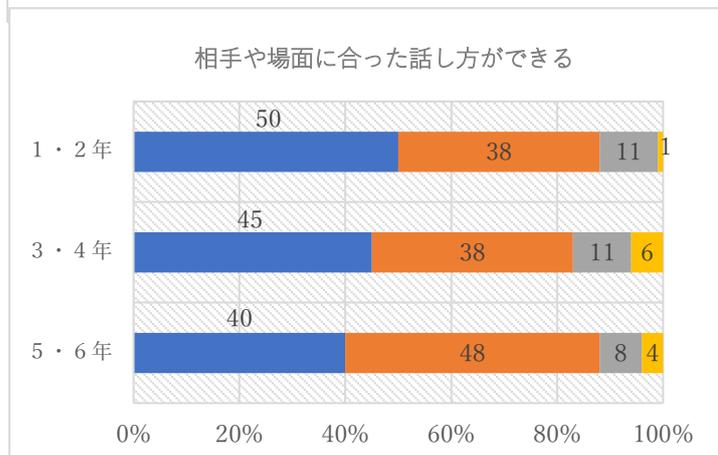
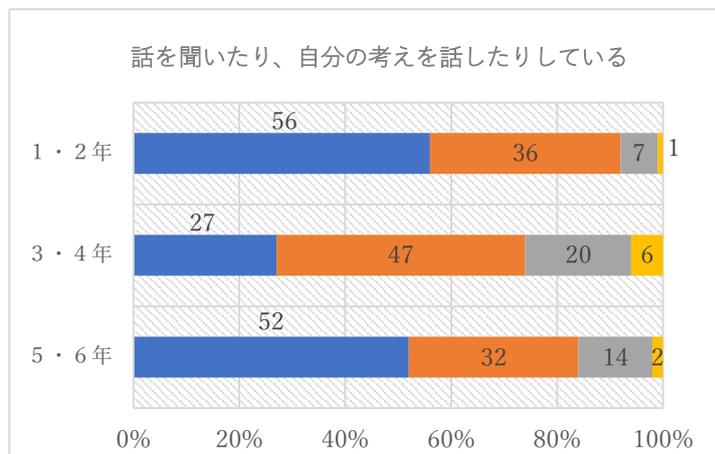
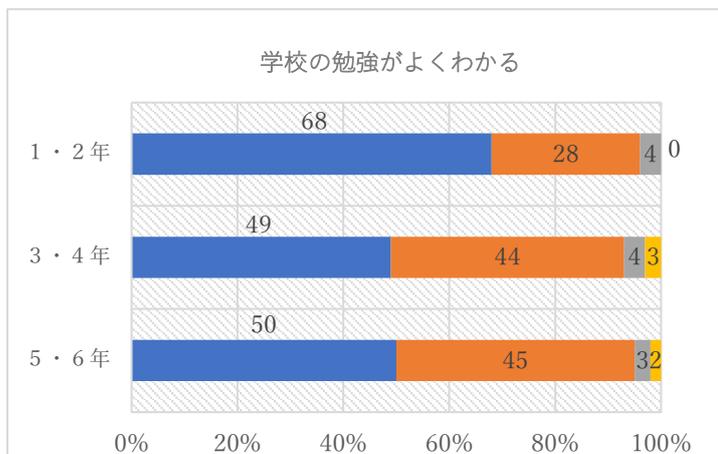


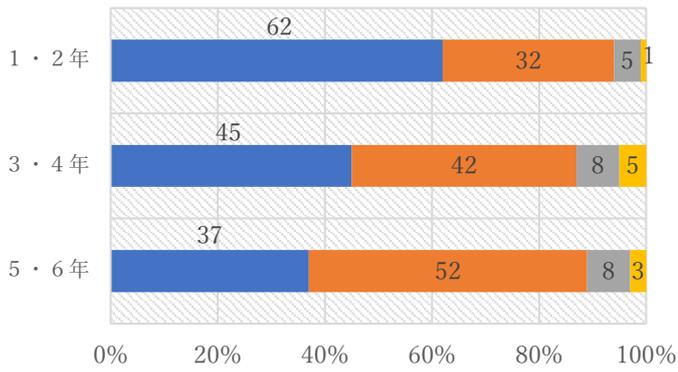
# 朱八小 後期 ふり返りアンケートの結果 【令和7年度1月実施】

平素は、本校教育推進にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。1月に実施しましたアンケートの結果をお知らせいたします。保護者の方々からも多くのご回答をいただきました。心より御礼申し上げます。

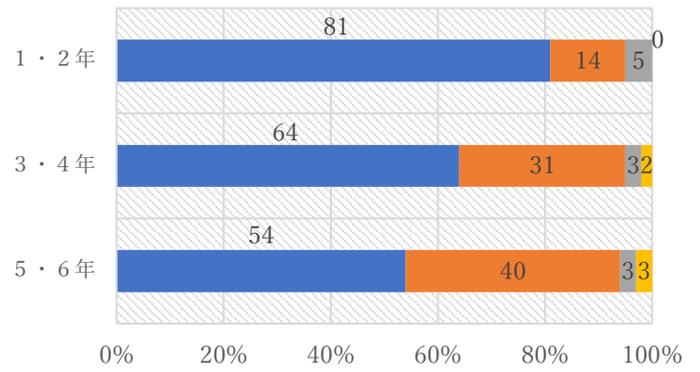
**児童の回答結果** そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 【百分率 (%) で表示】



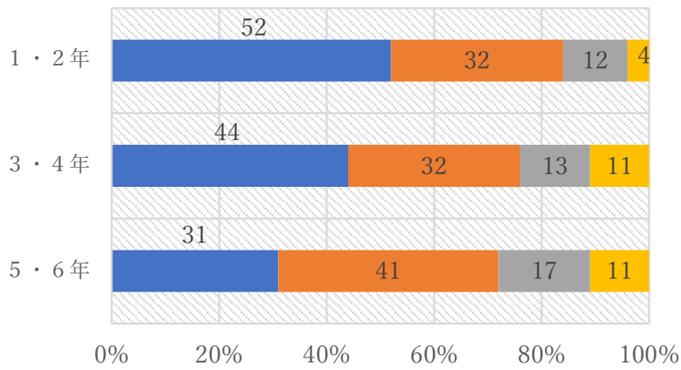
クラスや学校のきまりを守っている



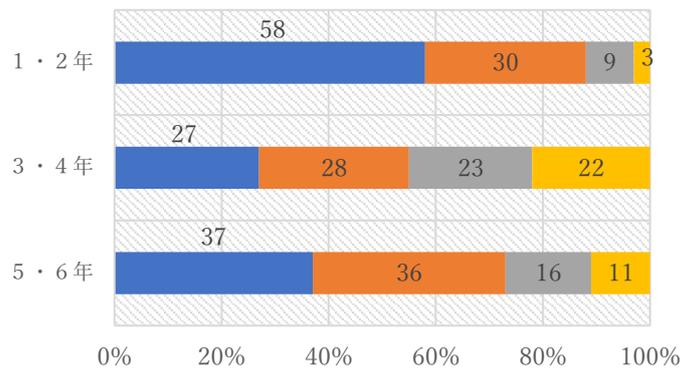
自分やみんなのものを大切にしている



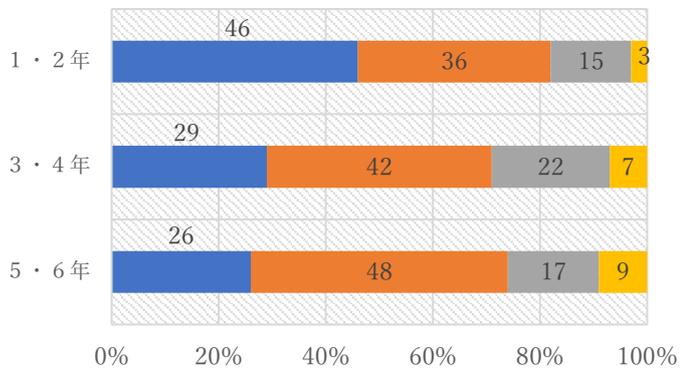
困ったことは家族や先生に相談している



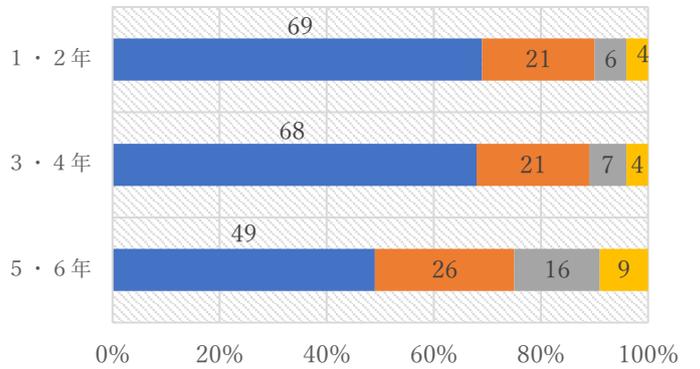
自分のよいところがわかる



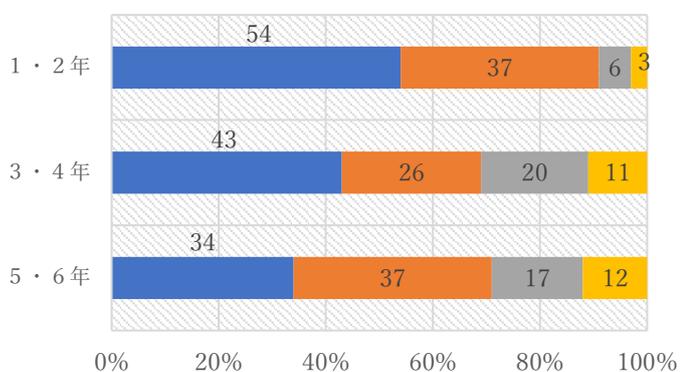
早寝・早起きなど健康的な生活をしている



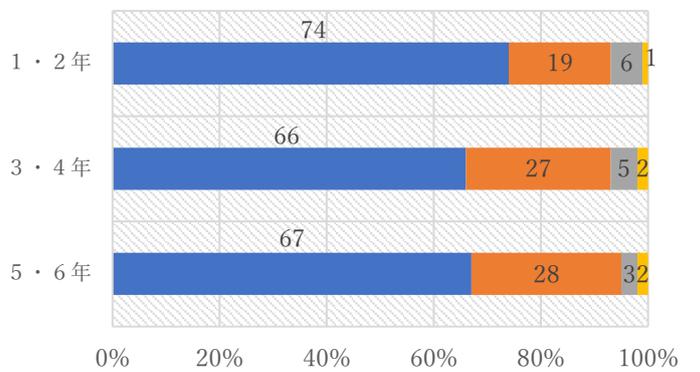
運動や外あそびをしている



食べ物の好き嫌いをしないようにしている

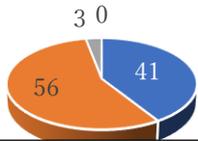
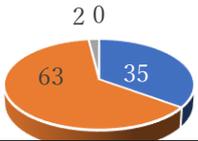
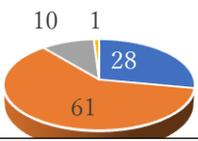
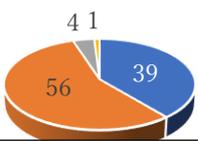
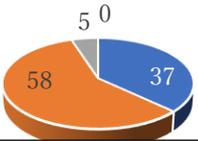
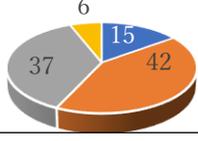
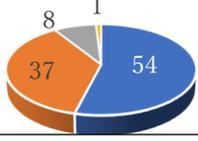
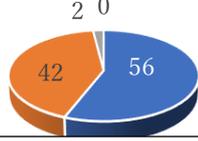
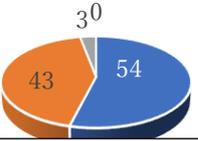
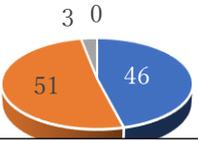
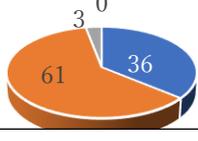
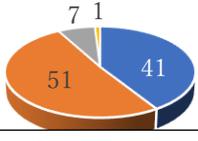
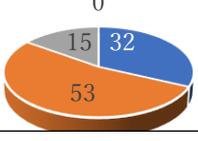
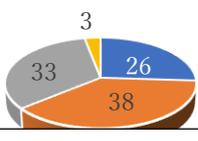
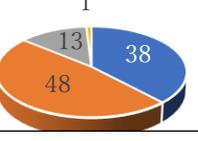
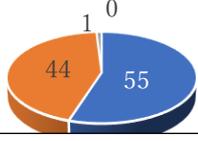


安全に気をつけて過ごすようにしている

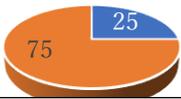
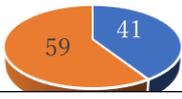
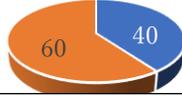
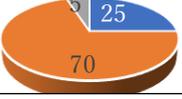
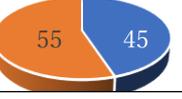
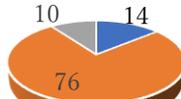
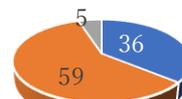
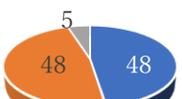
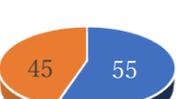
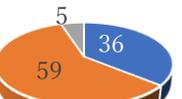
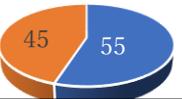
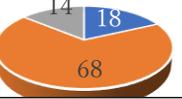
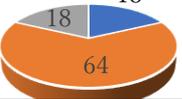
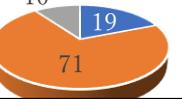
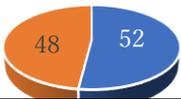


**保護者の回答結果**

■ そう思う   
 ■ だいたいそう思う   
 ■ あまりそう思わない   
 ■ そう思わない   
 【百分率 (%) で表示】

				
学校は子どもにわかりやすい授業をしている。	話を聞いたり、考えを話せたりするようにしている。	相手や場面に合った話し方ができるように働きかけている	家での学習の習慣が身につくように働きかけている。	苦手な学習にもあきらめずに取り組めるよう働きかけている。
				
子どもがすすんで本を読むように働きかけている。	子どもがすすんで挨拶をするように働きかけている。	人に対して優しい心が育つように働きかけている。	きまりを守るように働きかけている。	ものを大切にできるように働きかけている。
				
子どもの話を聞いたり、話しやすい雰囲気を作ったりしている	子どものよさを認め、ほめている。	早寝・早起きなど基本的な生活習慣を身につけられるように働きかけている。	運動や外遊びをするように働きかけている。	好き嫌いをせずに食事をするように働きかけている。
				
安全に気をつけて過ごせるように働きかけている。				

**教職員の回答結果**

				
わかる授業を実施している	話を聞いたり、自分の考えを話したりする指導をしている。	相手や場面に合った話し方をするように指導している	宿題や家庭学習の習慣が身につくように指導している	苦手な学習にもあきらめずに取り組むように指導している。
				
すすんで読書ができるような指導をしている。	すすんで挨拶ができるような指導をしている。	友だちを大切に、優しくできる学級経営をしている。	きまりを守る意味を教え、それらを守るように指導している。	ものを大切にできるように指導している
				
子どもや保護者の思いを受け止め、相談にのっている。	子どもの良さを認め、ほめている。	早寝・早起きなど基本的な生活習慣を身につけられるように指導している。	運動や外遊びができるように働きかけている。	給食時など好き嫌いをせずに食べられるように働きかけている
	<p>安全に気をつけて過ごせるように働きかけている。</p>			

「確かな学力の育成」について 児童の『学校の勉強がよくわかる』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が前回と比べて、高学年は31ポイントの増加が見られました。これは、保護者の『苦手な学習にもあきらめずに取り組めるように働きかけている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合も同様に3ポイント増加していたことから、ご家庭での働きかけが波及した結果でもあり、また、教員の『わかる授業を実施している』の質問に、「そう思う」と回答した割合も同様に13ポイント増加していたことから、教員の授業改善の意識向上の結果と考えています。一方で、児童の『本をよく読んでいる』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が前回と比べて、どの学年も、10ポイント以上減少しており、とくに高学年は否定的な回答している児童が5割以上でした。(教職員の『すすんで読書ができるような指導をしている』に「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は前回比4ポイント減) 小学生の読書離れが叫ばれるようになって久しいですが、原因としては、デジタル機器の使用時間増加や読むことへの苦手意識、読みたい本を見つけられないなどが挙げられます。学校でも、少しでも子どもたちが読書に親しめるように、朝読書やボランティアさんによる読み聞かせといった、短時間のスモール読書タイムのルーティン化、子どもや教職員による推しの本の紹介、図書室の魅力化などの取組を進めています。読書習慣は、語彙力、読解力などの学力面の向上に直結するだけでなく、集中力、共感性、思考力、自己肯定感といった非認知能力も豊かにしてくれるなど、子どもを総合的に成長させる土台になります。ご家庭でも、リビングなど本を手にしやすいところに置いておき、読みたいときにすぐに読める環境作り、図書館や書店の自由探索などが、読書の習慣づけに有効と言われています。学校や家庭など、周りの環境のちょっとした工夫の積み重ねで大きく変わると考えていますので、ご家庭でもサポートしていただくと嬉しいです。

「豊かな心の育成」について 児童の『周りの人を大切にしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた割合が、前回と比べて、低学年・低学年は共に変化はありませんでしたが、高学年は3ポイント減少していました。また、児童の『友だちや地域の人に進んで挨拶をしている』の質問も同様に回答した割合は、前回と比べて、低学年・中学年は共に6ポイント増加していましたが、高学年は8ポイント減少していました。今後も児童には、良好な人間関係を築く潤滑油として、自分から挨拶をする習慣を身につけてほしいと思います。また、児童の『自分のよいところがわかる』の質問に「そう思う」回答した割合は、低学年が58%、中学年が27%、高学年が37%と、全学年が低い数値となっていました。小学生では「自己評価の基準」がまだ育ちきっていないため、本校だけに限らず、自己肯定感が低い子どもは少なくありません。周りの大人ができることとして「抽象的ではなく、具体的にほめる」「できた/できないの結果ではなく、過程をほめる」「成功体験を得られる(自分の強みに気付ける)機会を意図的に設ける」などが挙げられます。子どもは自分の良さを自力で見つけることが難しいと言われていますが、教職員も適切なかかわりと小さな声かけを積み重ねていくことを大切に、少しずつ自分のポジティブな感情を育てられるようにサポートしていきたいと思います。さらに、『困ったことは家族や先生に相談している』の質問に、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した高学年の児童が、前回と比べて24ポイント減少しており、悩みごとや困りごとを一人で抱えてしまう心配のある児童が増加していました。これは、教職員の『子どもの思いを受け止め、相談にのっている』に「そう思う」と回答した割合は27%で、前回より20ポイント減少していたことから、教職員の子どもにアンテナを向ける意識の低下にも原因があると考えられ、目の前の子どもの言動を注視し直す必要があります。

「基本的な生活習慣の確立」について 児童の『早寝・早起きなど健康的な生活をしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた割合が、前回と比べて、中学年・高学年は、ほぼ変化はありませんでしたが、低学年は10ポイント減少していました。(教職員の『早寝・早起きなど基本的な生活習慣を身につけられるように指導している』に肯定群を回答した割合は、前回よりも14ポイント減少) 寒くなってくると、朝は布団から出にくくなりますが、朝ごはんへの食欲を、起床の原動力にすることも工夫のひとつで、そのためには夕食を早めに済ますことも早起きには効果的です。また、児童の『運動や外あそびをしている』の質問に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、前回と比べて、高学年は12ポイント減少していましたが、中学年は10ポイント以上増加していました。外遊びは、体力作り、ストレスの軽減はもちろん、コミュニケーション力、問題解決力、思考力の向上などが見込まれ、身体・心・学習力・社会性すべてに好影響をもたらす、子どもの心身の成長に不可欠な活動です。学校でも、外遊びイベントを企画したり、教員が「遊びの場の橋渡し」をしたりして、子どもが外に足が向きやすいような取組を推し進めていきます。(教職員の『外遊びに行くよう働きかけている』に「そう思う」と回答した割合は前回より7ポイント増)